

第1回 養父市文化会館(仮称)を新しい出会いの場とするための基本計画策定委員 会議事要旨

日 時 令和2年7月14日(火) 14:00～16:00

場 所 養父市役所 第1会議室

欠席者 なし

1 委嘱状交付(14:00～)

2 開会

3 市長あいさつ

施設のコンセプトとして、「人と文化と郷土をつなぎ、未来を創る学びと交流の拠点」とつけていただいている。まちづくりの拠点として施設をどう活用するのか、その部分が、まだ明確になっていないところ。この文化会館(仮称)を、これからの養父市の新たな未来に向けての拠点づくりということにしたいと考えている。

建築課の長谷川逸子さんが書かれた記事で、公共建築、公共空間をどういうものにしていくのか。彼女は原っぱのような空間をということをおられて、新しい養父市の文化会館をこのような、原っぱのような空間にしていけたらなと思っている。多くの方が、ここに来て、集まってくることができる、しかも壁がない。いろんな人がここに来て、自由に。そういう空間にできたら。

新しく建てようとしている文化会館(仮称)の近くに、池田草庵先生が地域の方々を教えられた立誠舎という、塾があり、150年たった今も、養父市民は、池田草庵先生の教えを生きる上での人としての一番原点としているように、この施設が、100年150年たっても、市民の心であったり、まちづくりの拠点である場にしていきたい。

そういう意味で、ここには多くの方が、自由に、出はりして、遊んで、学んで、また人と人とのコミュニティをつくり、繋がりを作っていく。そういうことができるような空間にしていけたらと思っている。

【4 出席者自己紹介】

【5 会長及び副会長選出】

会長 平田オリザ 氏 副会長 和田祐之 氏

【6 議事】

- (1)市の現状説明→資料に基づいて事務局説明
- (2)計画策定委員会の進め方について→資料に基づいて事務局説明
- (3)意見交換

【文化芸術振興施策について】

- ・公民館の延長線上の施設だったのが、本格的な劇場音楽堂法に資する会館ができる。クリエイティブなもの、或いは地域の交流の場となるようなものをきちんとやる、それをやるための専門家をき

ちんと配置し、そのためにはどんな人材が必要か、どんな運営体制が必要なのかを考えることがこの委員会の一つの大きな役割。

- この文化会館に、市民は何を求めるのか、文化会館に何を発信できるのか。既存のホールの建て替えではなく新たなものが養父市に生まれるという発想で考えていくべきかと思う。そういった面から、抜本的に変えていって議論して、よりよい、養父市にあった運営方策を議論すべき。
- 質の高い芸術文化を市民の方に提供し、特に子どもたちをターゲットに、見せたり、体験をしたりしてもらおうと。
- 文化政策全般にいえることだが、特に子どもたちに広くアート、音楽等に触れてもらって、その中からやりたい子たちはきちんとステップアップしていける道筋を作る。その中で、自主事業、いわゆる鑑賞事業をどこに位置付けていくのか、戦略的に、年間のプログラムを考えていくことが、必要なのではないか。
- 通常だとこの秋には助成金の申請等の季節になる。それまでには、もうプロデューサーを選定してないといけなと思うが、ちょっと遅いということはある。この委員会も少し急がないと。
- オープニングから 1、2年というのは、総務省の外郭団体で地域創造というのがあるが、そこから助成金は本来取りやすい次期。きちっと取っていかないと市民から不作為と訴えられる。
- アマチュアの果たす役割というのは非常に大きい。アマチュアの土壌を開拓し、演奏団体や実演団体を作って育てていけば、一世代、二世世代ぐらいで養父市出身の日本中で活躍するような優秀な方が出てくる可能性もあるのかなと思う。
- 管楽器はよく学校のブラスバンドで音楽に目覚めた人が素晴らしい演奏家になることも多い。ブラスバンドはアマチュアの方でも公演をされる。あるオーケストラが地元の子どもたちを、本当に何も知らない子どもをぽっと入れ、その場で団員達が指導して、管楽器というのは割とすぐ音が出るので、ここで目覚めたりする人材がいたりすると。そういうふうには養父市で人材発掘して育てたりする、そういう試みもいいのでは。
- 次の世代の人への刺激。
- 時間はかかるけれども、逆に時間がかかるということほど、行政が中心になってやっていかなければ。なかなか企業ではできない。
- 養父市でできる音楽祭とは何か、ご議論いただけたらいいかなと思う。
- 「〇〇の聖地」というのはとても手堅い。この場所が、〇〇の聖地っていうものになれたらすばらしいと思っている。おそらく長く繰り返していかない限り、そういう場所にはなれなくて、チェロやる方にとって、養父(ビバホール)はもしかしたら自分の聖地の一つになってらっしゃる可能性もきつとあるのだと思う。文化会館の中で、どういうふうストーリーづけできるかということも、大事なことでないか。
- 圧倒的な魅力を何か一つ作っていく。音楽なら、チェロならチェロを核にして、室内楽の、ちょっと質の高い音楽祭等であればそれほど無理のない予算で、きちんとしたプロデューサーがいれば十分できるのではないか。

- ・新たな価値創造というところで、教育分野との連携ということが重要になってくのではないか。おそらく時間がかかるかなと思うが重要なこと。
- ・教育社会学、統計的にデータが出ており、4 小学校 6 年生の学力テストの上位 25%と下位 25%を比較すると、博物館美術館に行っているかということで非常に大きな差がデータとして出ている。同じようなデータがアメリカではミュージカルで出ている。そういったことが、これから大学入試改革などを通じて大学入試とかに直結する時代になってくる。
- ・地方創生、人口減少対策ということでUターンIターンを呼んでくるのも教育政策や文化施策をしっかりしてないと若い方が戻ってこない。
- ・長期的な地方創生で考えると、高校生同士の交流っていうのはとても大事なことで、養父市から豊岡や朝来の高校に通っている子、豊岡、朝来から八鹿、但馬農業高校に通っている子がいて、その結節点になる。

【施設の効果的な利活用について】

【プレイスメイキング】

- ・中小都市の公共ホールの運営は非常に難しいところだが、プレイスメイキングという手法が中小都市の公共ホールの活性化になる事業展開など、有効ではないか。
- ・人を呼び寄せる居心地のいい場所をつくる。壁がなく、どなたでも自由に来られて、居場所がある。居心地のいい場所にすることができれば、おのずと人が集まってくる。また公民館的な使い方、図書館であれば読み聞かせというようなことなどが、それらが全体として一年を通じて繋がるようになれば、にぎわいが生まれる。
- ・なんの目的もないけれども、あそこにいけば何か楽しいことがあるよ、という場所づくり、そのプレイスメイキングの考え方を使い、にぎわいづくりをやっていくことができればいいのかなと思う。
- ・365 日間、どんなふうにもこの場所を使いこなしていくのかということ、みんなでワークショップしてアイデアを募った。高校生やママさんたちからもすごいアイデアがあった。潜在的に多くの方々の中に、この場所で何をしたいのか、どう使いこなしたいのかというアイデアがきっとある。
- ・いわゆるそのプロフェッショナルな実務型の公演を打っていくっていうことも、当然施策としては考えなければならないが、それだけでなく、若い世代を含めて、この場所をうまく活動の拠点として使ってもらえるか。それから、市民の皆さんの中には、文化芸術以外においても、様々な形で、この場所をうまく利用してもらえるように。
- ・バスや電車の本数が少ない中で、この場所は高校生がきて、ちゃんと勉強できるような場所であればいけない。高校が終わってどこに居場所があるのか。そういう子たちに居場所を作ってあげなきゃいけない。
- ・居場所となるためには、椅子や机、Wi-Fiの能力、開館時間。市だけで難しいのなら、市民の皆さんと一緒に、何時から何時までならどのような運営ができるのか考えなければならない
- ・事務所棟及び周辺エリアの活用というのは重要で、特にグンゼ事務所棟、宿泊等は、今は耐震工事等々含め、土地利用未来課が担当。ホール、図書館等公民館機能に関しては、推進室が

担当になっている。最終的に、それがどういうふうなマネジメントのあり方が、理想的なのかどうか。この議論の中において、とても魅力的なものがあれば、反映させていけるタイミングというような委員会の開催ではないかと。特に隣接している施設をうまく相乗効果を出せばいいのかといったことも合わせて議論があるといいではないか。

- 近代建築もあり、ある程度の木造和風建築も持っている。そして最新の音響を持つホールも持っていて、図書館もあり、公民館機能もある。さらに広大なオープンスペースを持っているという、全国的に見てもかなり、プログラムとしては魅力的な構造を持っており、いかにそれをうまく、市の中の組織も連携し、その他この委員会でもいいコンセプトを作って、政策として打ち出していけるのかといったことは、とても大事。
- 文化会館、グンゼ事務所等との整備担当が別々だが、施設としては一体と考えている。方向性をしっかり受けて、目的が達成できるような整備の仕方、創ろうとしているものは、一つのものを作ろうとしているという意識を持って、それぞれが連携していく。(市長)
- 最近貸館も、普通の貸館事業と、提携事業と自主事業という真ん中もある。小さな自治体とかが活用している。それも含めてプロデューサーの力量にかかってくるのかなと。
- カフェについては、いろんなレベルがある。保健所の問題もある中、今非常においしいドリップ珈琲を飲む自販機もある。カフェスペースを設置するか、或いは逆に、例えば高校生にカフェを経営してもらおうとか。夢をもって、皆さんに語っていただけるといいのではないかと。そして、いつも音楽が、生のチェロが聞こえてくるカフェなんていうのも。高校生の誇りにもなる。
- 高校生が例えば学校行く前に文化会館でちょっと勉強してから行くかというときに、例えば、移動タピオカ屋とか、高校生相手に商売を始めるかもわからない。そういう環境づくりが大事。
- 市内でおもてなしできる食材もたくさんある。そういう市民参加の仕方もあるのかなと思う。
- 食に関しては、やり方はいわゆるフードトラックを使うなど、建築物だけじゃなくて、いろんな形があるかと思う。
- 農業特区としての養父市の部分も、この場所でうまくプロデュースしていくのは、大事なことではないか。農業特区としての養父はある程度知られていると思うが、ただ実態としてそれで何があるのかというところが、なかなか具体的に届いていないのではないかと。そこに食のプログラムを当てはめられないか。
- おしゃれなテーブルとか椅子とかではなく、質実剛健がきちとした机と椅子ではないかと思う。やはりWiFiとコンセントと、いい机がある。いい椅子がある。そこにちょっとしたなんかスナックとか飲み物があるっていうのは、必要。
- そこに高校生たちがいてくれると、小さい子どもたちを遊ばせても安全になる。建築論的に言うと、いかに死角を作らないか。空間的にデッドスペースとか、そういう見えない場所を作ってしまうと、犯罪率が上がるというのはもうこれもデータ的に出ていること。その辺は、やはりランドスケープの中において、全体をみたときに、死角をいかに作らずに安全な場所であるか。
- 駐車場もあるので、魅力的な公園というふうにとらえて、車で子どもさんを遊びにつれてこられる方も多くなってくるのではないかな。

- ・立地上も高校と JR 駅の間地点にある。全国の公共施設で成功している一つの目安が高校生のたまり場になっているかどうか。そこには必ず電源と Wi-Fi があり、私たちは高校生ホイホイと言っているけれども、できれば5Gを入れて。そうしたら勝手に集まってくる。

【推進体制】

- ・行政では担当者がころころ変わる。予算はつく、演奏家は呼べる、でもどんな演奏家を呼んでいいのかわからないので、結局、どこにでも出ている名前のある方を呼ぶ。だから同じ人が全国津々浦々回っていて、結局本当に育てたい人材が育たない。今クラシックはそんな状況。
- ・よくあるのが二通り。プログラムを作る、どのような主催公演にするか決めるホールの支配人が親しいアーティストに振って終わりというようなお友達のな決まり方、もう一つはクラシックなどをあまり知らず、著名アーティストを呼んできて終わり、どっちかに分かれてしまう。そのどちらでもない形がいいと思う。
- ・市で、その一つの部署の専門的な人を育てるという体制には、日本の行政ではなかなか切れない。そこをどういうふうにかバーしていくか。
- ・専門家の配置について、主に3種類あって、芸術監督音楽監督などのいわゆるアーティスト系、それとプロデューサー系、それから技術スタッフ。この三つは次回以降にご議論いただければ。市役所のほうでも腹案があれば。
- ・舞台装置や音響照明器具とか、デジタルの最新のものが入っており、自分は演じられないけれど、裏方で参加したい市民のかたは、結構おられるのでは。それらの方たちを運営スタッフに取り込んでいき、量・質ともに充実させていくなどしてはどうか。新たに若い人を取り込んでいくなどしてはどうか。
- ・外部の人がどのように関わるのかということ議論していく必要性があり、とても重要。せっかく今回いい機材が入るのに、その機材を使いこなせる裏方さんがいないわけにはいかないはず。
- ・この規模の自治体はなかなか専属の職員なり雇うとしたら大変。また人事体制として、どういう絵を書いていくかということが重要。技術スタッフにしても、今までとスペックの違うものが入るのでそれにどう対応していくのか。
- ・施設を市の中でどう育てていくのか、また外から応援して下さるか。様々な音楽家芸術家がどう関わるのか。或いは今度の専門職大学の先生たち、大学の研究室としても地域に関わっていて、それと地域おこし協力隊のように、中長期的に住みながら応援する、ステークホルダーの幅を広げていけるか。
- ・市民参加の一つの例として、養父市では子どもたちのダンスが盛んで、小学生から高校生、高校を大人のひとにも指導者になってやっている。この中に、専門職大学の教員の方とか、青年団のスタッフのとか参加されたら、参加も増えてレベルが上がっていくのでは。
- ・市内のホールでも、ビバホールは、企画集団という市民が文化振興団体を作って、そこに委託料を払い自主事業と、ホールの運営を行っており、公民館の担当者は貸し借りの予約を受けている。大屋ホールは、市の職員が事務局で関わって、文化ホール振興財団に同じように委託料を

払って、自主事業、その中に、各種スタッフ集団、オペレータースタッフ集団があると。八鹿の公民館は、直営の中にスタッフ集団はあるが、事業そのものは直営で、市民と参画するときは実行委員会を組織してやっている。どのようなやり方であれば一番市民が参加して、よりよく、このホールの目的に合っているかということも、提言をしたらいいと思う。

- ・地域おこし協力隊の制度を上手く使って、いわゆるパフォーマンスをする人たちを、養父に連れてきて、そういう人たちが運営にも携わるようか仕組みができればいい。
- ・既存の体制は一応こうなっている、市としてはこういうふうにしようと思っているっていう青写真を出してもらって議論するというのが委員会として非常に効率がいいのではないかと。
- ・今の人事の体制だけでも見せてもらって。それと新しい部がどのように関わるのかということ、組織図なりを見せていただいて議論を。

【具体的アイデア】

- ・例えば 300 席ぐらいの大阪のフェニックスホールで毎年企画募集をやっており、若手の演奏家作曲家たちに、一晩の音楽会の企画を出させて審査をし、実際にやってもらおうと。ホール代やチラシ印刷代は全部ホールが持つという。若手にとってその自分の企画、実際舞台に乗せる素晴らしい機会になっている。
- ・東京の初台にあるオペラシティがB→Cという企画をしていて、これはバッハからコンテンポラリーへという非常に広いスパンのクラシック音楽の弾き手が応募し、審査して、演奏審査もして、若手の登竜門として、非常に素晴らしい成果を上げている。
- ・音楽祭では、例えば北とびあ音楽祭。若手音楽家に企画募集をして、受かると音楽祭の時に一枠公演できる。これもその経費は音楽祭もち。
- ・ホール自体として何か企画をするというのはとても活性化させるのでいいこと。
- ・いろんな人が来たい時に来て楽しむっていうものもいい。
- ・ラ・フォル・ジュルネ。フランスのナントっていう小さな町から始まった音楽祭で、ルネ・マルタンという素晴らしいディレクターがいて、各地でやっており、東京にも上陸し 5000 人規模の会場から、100 人規模の会場まで、クラシックだけではなく、ジャズやポップスなどいろいろなものをやり、その期間中は朝から晩まで、ふらっと来て楽しんで帰る。一つのコンサートの時間を 45 分から 60 分にしており、あまり長くなく、いろんなところに聞きに行ける。年齢制限も、普通のクラシックだと未就学児童は駄目なところも多いが、ここは赤ちゃんが泣いてもいい、子どもがばたばた走り回ってもいいコンサートなども設けており、モデルとなる。
- ・せんくら、といい、仙台とその近辺で様々な場所で色々な催しをやっていて、ホールだけでなく、広場や公民館であるとか。
- ・阿佐ヶ谷では、ジャズのフェスティバルをやっていて体育館であるとか公民館であるとか喫茶店であるとか、どこでもその期間に行けば一流のジャズが聞けるという催しもある。
- ・やはり地元の出身の人たちにステージを与えるのはとてもいいことで、別府のアルゲリッチ音楽祭では音楽祭の期間中、地元演奏家のコーナーがあり、ここでやっぱり一つのステージを持たせる

というもので、同じことができるかなと。

- せっかくビバコンで素晴らしいチェロのコンクールをされていて、特に宮田大さんという世界に誇るチェロ弾きがビバコンから出ており、他にも素晴らしいチェリストが出ていて、ビバコンの出身者のステージがマストだろうと思う。
- 図書館のコンサートなども、本に囲まれて、違う雰囲気ですごく文化的でよい。
- 今、公民館のカルチャースクールも、楽器を入れて、ピアノを使った公演とかできる。
- 多ジャンルのコラボレーションが非常に盛んな時代であり、セリフをつけた音楽物語のようなものを作ったり、舞台上で実際に語りを作ったコンサートもある。また今映像を使った公演も増えていて、映像作家も、才能のある人たちが出てきていて、そうした他ジャンルとの連携もよい。
- 例えば有名なユーチューバーの人で、最高峰のコンクールにエントリーを許されている素晴らしいピアニストが、素晴らしいユーチューバーとして、即興のジャズなどを演奏して面白い動画を作っていたりして、すごく飛び越えた才能ができていて、そんな試みもある。
- ハチ高原では、関西圏の様々な音楽活動をしている大学や高校が合宿する場所になっている。合宿して、そして公演いただくとか。
- ようか夏祭りで作り物を各まちで展示しているように、出演者が、ストリートごとに街角でちょっと演奏していく。こっちでやっていますよと、そういう動線にして人を呼び込んで、新しいクラシックファン層をいれるとか。こういうのも面白く取り組めるかなと思う。